

平成28年度 学力向上検証委員会のまとめ

1 目的

とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）を検証し、今後の学力向上に関わる施策等について意見を述べ、県教育委員会が実施する学力向上対策の改善に資する。

2 期 日

- ・第1回 平成28年9月8日（木）
- ・第2回 平成28年12月5日（月）、平成28年12月6日（火）
- ・第3回 平成29年1月31日（火）

3 会 場

県庁舎本館9階会議室3、宇都宮市立桜小学校、真岡市立真岡西中学校

4 学力向上検証委員

12名（大学教授、県小学校長会代表、県中学校長会代表、県高等学校長会代表、県小学校教育研究会代表、県中学校教育研究会代表、都市教育長協議会代表、町村教育委員会教育長会代表、県PTA連合会代表、総合教育センター所長、教育事務所長会代表）

5 主な意見

(1) とちぎっ子学習状況調査について

- とちぎっ子学習状況調査と全国学力・学習状況調査を車の両輪のように、バランスをとりながら実施していくための制度設計を検討する必要がある。
- 実施時期については、他の時期に変更することや年2回実施についても検討を希望する。
- 対象学年や対象教科については、中学校1年生を対象とした調査及び小学校調査への社会科の追加について、検討を希望する。

(2) 学力向上アドバイザー派遣事業について

- 訪問した学校では、学力向上アドバイザーを派遣した3年間を通して、校長のリーダーシップの下、学力向上担当者が中心となり、学校全体で継続的な学力向上に向けての取組が積み重ねられてきている。
- 県内全小・中学校に対する均等な派遣と、課題が見られる学校に対する重点的な派遣について、メリット、デメリットに関する情報収集を希望する。
- 地域の拠点校を中心にアドバイザーを派遣し、域内の学校の学力向上を図る方法も考えられる。

(3) 研修について

- 教員研修については、今後も継続を希望するが、研修内容については、教員の意識改革から具体的な方法へステップアップする時期にきている。授業における具体的な取組について考える研修を希望する。
- 全員が当事者意識をもつことができるような教員の研修とともに、校長など管理職の研修が大切である。学力向上について、それぞれの立場で考えていくという意識をもつような研修を行う必要がある。

(4) 保護者の理解・協力について

- 保護者啓発資料については、よい資料が作成されている。今後は、配布時期について検討することが必要である。また、保護者が理解できるような内容となるよう配慮するとともに、保護者の声を大切にしながら作成することを希望する。

6 委員長の総括

本委員会では、様々な立場の委員から本事業の施策等に関する意見をいただいた。本事業は平成26年度から実施され、今年度で3年目を迎えた。事業の柱の一つである学力向上アドバイザー派遣事業も、3年間で県内全小・中学校への派遣が完了した。その結果として、各学校が学習指導に関わる検証改善サイクルの構築・運用が図られ、教員の学力向上に向けての意識は高まってきたとの意見が出された。一方で、実質的な授業改善という点では、まだ十分ではなく、今後は、重点的に取り組んでいく必要がある。今後とも、県教育委員会は、児童生徒一人一人の学力向上に向けて、市町教育委員会とより一層の連携を図るとともに、本事業に関わる施策の実効性を高めていってほしい。